

スモーキーマウンテン2(以下「SM2」)の最も献身的な住民リーダーだったマルーさんが殺されてから3カ月が経ちます。10人の子どもの母親であり、別のゴミ捨て場周辺スラムでの立ち退き反対運動も経験してきた彼女は、強制立ち退きに抵抗するSM2住民の先頭に立って住民の権利を主張し、奮闘してきました。彼女は、地域の子どもたちや貧しい人々の立場に立って活動する人物として知られていました。それにも関わらず、彼女は射殺されてしまいました。

マルーさんの家族は今

マルーさんの子どもたちは母親の死から立ち直れずにいます。3月に犯人グループが彼女の家に銃を持って押し入り、「反対運動を止めないと家族を殺す」と言って脅す、という事件がありました。その場で銃を突きつけられた娘のマージョリーは、まだトラウマから立ち直れていません。

マルーさんが殺された現場にいた息子のジョーマルも、深い心の傷を負っています。スポーツが得意な彼は、悲しさを紛らわすために日々スポーツに励んでいますが、あるソーシャルワーカーが彼に調子を尋ねた際には、言葉を失って涙を流したといいます。

子どもたちの父親ジョージさんは家族を養いたいというジレンマを抱えながらも、立ち退き反対のための地域活動に忙しく、家計は非常に苦しい状況にあります。特定の収入源がないため、立ち退き反対運動に共感する人々や友人からの支えで、やりくりしています。学齢期の子どもたち6人は、今も続く家族への脅迫や経済事情のため、学校に行けずいます。

逮捕されない犯人たち、 思いを口に出せない人々

そんな中でも、一家は正義を求め、3月の脅迫事件に対して母親が起こした裁判を引き継いで闘っています。しかし、フィリピンの司法制度は、貧しい人々に不利な仕組みです。家族は、この事件が軽い処罰で済まされようとしているのではないかと、不安に感じています。

犯人たちはこれまでもいくつかの事件で起訴されながらも、地元の有力者や政治家とコネがあるため、逮捕を免れてきました。マルーさんの家族や私たちは犯人グループから追われる一方、彼らは逮捕されることなく、普段どおりの生活を送っているのです！犯人たちはバランガイ警察の職に

復帰し、銃を携帯して住民を威嚇しているため、表立って立ち退き反対を主張する人はいなくなりました。多くの住民は家族の安全を思い、意見を口にしないままです。一人ひとりの住民と個人的に会って話をすれば、「立ち退き反対運動に参加し続ける」と表明する人々はいます。しかし、家族の安全を思って、そのことを犯人グループに知られることをとても恐れています。マルーさん一家の友人の多くは、事件と関わることを恐れ、一家と突然距離を置くようになりました。SM2に暮らす住民によれば、アクセスの現地スタッフに対する脅迫(「殺す」、「誘拐する」など)も続いており、スタッフもまだ地域に入ることはできません。

マルーさんの願いの実現のため、行動を！

暴力だらけのSM2のような地域で育った子どもたちを待ち受ける未来は、どのようなものなのでしょうか？

私たちが望むのは、嫌がらせや暴力がない安心できる暮らし、子どもたちが子どもらしく自由に過ごせるような生活を取り戻すことです。マルーさんは、そうした地域を創るために命をかけて闘っていたのです。

他の人がどうにかしてくれる、時間が解決してくれると思う限り、変化は起きません。私たち自身が変化を起こすしかないのです。子どもたちは、いつか実現する『よりよい明日』を待ってはられません。もう二度と犠牲者を出さないためにも、私たちは今行動を起こすしかないのです。



生前のマルーさんと息子

立ち退き反対の署名キャンペーンは
11月末まで続きます！ご協力ください。

03